

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4072200423		
法人名	有限会社 ツーウェイ・ヒューマニゼーション		
事業所名	グループホーム 和 笑		
所在地	〒838-0002 福岡県朝倉市長谷山393-10	0946-25-0377	
自己評価作成日	平成23年03月05日	評価結果確定日	平成24年03月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

集団生活の中でも、一人ひとりに対する個別ケアが適切に行えるよう、生活歴、職歴、習慣病歴等を職員間でのみ共有している。また、その方の得意とする分野の披露等を直しても、日々の生活にハリと自信を持って頂けるよう努力している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

歴史的なめがね橋が、散歩コースにあり、秋月城の近くの自然が残る住宅地の中に、周りと違和感のない、家庭的な雰囲気のグループホーム「和笑」がある。デイサービスセンター、宅老所と併設し、有料老人ホームも近くに設置し、地域密着型複合型福祉施設として、地域の福祉、介護に貢献するために、入居しやすい価格設定に配慮し、いつまでも利用者が生まれ育った地域で、暮らせる喜びを感じてもらえるホーム作りを目指している。主治医が協力医療機関で、24時間対応できる体制は、利用者や家族にとって、安心と、信頼に繋がり、家族アンケートの回収率、内容も良く、利用者、家族、ホームの支え合う関係は見えて気持ちホットするものがある。開設して8年が経ち、地域に根付いたグループホームを目指し、職員全員で頑張っている「和笑」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 24年03月23日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を大切にケアに努めているが、地域の方々との触れ合いは薄いと思う。	「和笑」独自の理念を掲げ、職員間で理解し、共有して、利用者一人ひとりの目線に合わせた介護サービスを実践し、地域の一人として暮らせる工夫をしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	行事のお誘いを受け、参加したり、また事業所への慰問がある場合、近隣の方をお誘いして楽しんでいただいている。	花まつりや清掃等、地域の行事に利用者職員が参加し、小学生や、保育園児とのふれあいや、デイサービスとの交流等、利用者の状態に合わせ、地域交流が始まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られたり、匿名での電話相談を受けたりしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	すぐにできない良いアドバイスもあるが、徐々にサービス向上になるよう改善している。	会議は、2ヶ月毎定期的に開催し、委員から、質問、提案、情報等が出され、ホームからの状況報告や、予定、問題点等を出し、活発な会議になっている。出された意見が、ホーム運営に反映されるように努力している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	やはり運営推進会議時にて尋ねたり行政からの新しい情報を頂いたり助言を求めたりしている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員や、民生委員が参加し、ホームの現状を把握した上で、情報や、助言等提供してもらっている。また、管理者は、行政窓口に向く等、行政との連携強化に努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々に応じた見守りに努め拘束は行っていない。玄関も施錠はせずチャイムを付けて、単独の外出とならぬよう危険防止としている。	身体拘束廃止マニュアルを用意し、勉強会を開き、拘束が利用者にも与える影響を職員間で理解し、共有しながら、身体拘束廃止に向けた取り組みをしている。また、玄関の鍵は、利用者が自由に入出入りできるように、日中はかけていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	原則禁止の認識を持ちケアに努めている。身体的はもちろん、言語的虐待にもならぬよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は情報で知る程度で協議会全体での研修も毎年はなく、事業所内での取り組みも数年前に、講師を招いてしていただけであり、十分ではない。	現在該当者はいないが、管理者と職員は、利用者や家族が、制度の活用を希望する場合に、支援できる体制を検討している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って読み合わせを行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望が寄せられた時は確実に管理者に伝える様にしている。	運営推進会議に、家族が参加し終了後、家族会を開き家族同士で話し合う機会を作り、意見や要望を聴き取り、また、面会時や電話、手紙などで家族と連絡をとり、相談ごと等を聴きながらホーム運営に反映させている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティング等で疑問や意見は出し、相談、報告している。	職員会議やモニタリング、カンファレンス、ミニミーティング等を定期的開催し、職員の意見が出しやすい雰囲気の中で活発に議論され、出された意見を出来るだけ、運営に反映させる努力をしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績など、また勤務状況等を把握しているつもりだが、実に向上心を持っているような反映には至っていない。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢等の差はない。	職員の採用は、人物本位を優先し、資格や経験、性別、年齢等、制限はしていない。また、管理者は、職員が生き生きと働きやすい勤務体制等、環境整備に努めている。	職員の休憩室、休憩時間を確実に取っていくため、職員のロテーションに配慮し、リフレッシュしながら、仕事ができる体制の確立を期待したい。
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時に伝えている。	管理者は、外部の人権研修に参加し、報告を兼ねた勉強会で、職員に理解してもらい、利用者の人権を尊重する取り組みを始めている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	報告や相談を受けた時、随時助言したり、また研修の案内をしたり進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に4回あるGH部会と地域の介護職を対象にしたスタッフセミナーがあるが、希望者の参加によるので十分ではない。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に聞きとりし、又入所後日頃の会話の中で傾聴し、把握するよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にできる範囲家族の要望等の把握に努め、又面会時には利用者様の日常の様子を報告し不安な点を尋ねたりしつつ、お互いの信頼関係を築く事を第一に考えている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の表情や言葉からも正しく支援につながっているかを見極めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	冗談を言ったりふざけあったりするような関係もあり、「介護されてる」との思いを与えないよう、ケア目的であっても、手伝っていただいた事に感謝の言葉を忘れずに伝えている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まずは何でも尋ねやすい活かしやすい信頼関係の構築に努めた上で情報を共有したりして、どうしたらよいか一緒に検討したりしている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問される事はあってもこちらから訪問したり行ったりする事は殆どない。	友人、知人の訪問は少ないが、遠い親せきや孫などの面会があり、昔馴染みの商店での、買い物、理・美容院に向く等、馴染みの関係継続を図るための努力をしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が楽しく笑える雰囲気作りに努め、もめ事なく仲良く暮らせるようにスタッフがなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方へは、命日、初盆等に訪問したりし、又他施設や病院へ移られた方へは時々お見舞いに伺うが、相談、支援には至っていない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や行動を見ながら出来るだけ意向に添ったケアができるように努めている。訴えには出来るだけ叶えられるように拒否時は無理強いしないように等している。	管理者と職員は、利用者と談笑しながら希望や要望を聴き取り、家族と相談しながら、出来るだけ希望に応える対応をしている。また、意向表出が困難な利用者には、アセスメントや、ベテラン職員による、利用者の元気な頃の様子等を参考にして取り組んでいる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや面会時に状況報告をする事で情報の把握に努めている。入居後は、日常の会話の中より、その方のその時の考え方や気持ちを組み取るよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で情報共有に努めると共に1人1人の観察を細かく行っている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回の職員会議で話し合うと共に家族にも意見を求めて作成している。利用者の日々の状況と計画が適しているか、出来ているか等確認している。	介護計画は、利用者や家族の意見を聞きながら、関係者や主治医と検討し、3ヶ月毎に作成している。利用者の重度化に備え、家族や関係者と連携を図りながら、利用者本位の介護計画をその都度作成できるように努力している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表の中にケアプランの一部を記入し、ケアの実践に努めている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全体で行う体操、レクの他に個人が希望する内容のケアをスタッフと1対1で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	農道での散歩中に出会った方々との挨拶を大事にし、又地域のボランティアの方々の慰問を受けたりして、少しでも関わりを継続し楽しむ事が出来るようにしている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に提携医療機関への変更の了解を得る時に、前かかかりつけ医の情報等を細かく収集し報告につなげている。24時間対応の提携医療機関より往診を受けたり、訪問歯科、訪問マッサージ、看護師の設置で対応している。	入居時に、利用者や家族と話し合い、全員が協力医療機関で了承してもらい、かかりつけ医の情報提供を受け、24時間の医療体制を確立し、利用者や家族の安心と、信頼に結び付けている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の細かい気づき等、申し送り等で伝えたり、その都度報告して適切な処置に努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	密に病院を訪問し、Faや病院関係者からの情報収集等に努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	そういう状態になった時にFaや協力医と話しをして支えている。協力医の24時間対応は得られているがスタッフはいつも同じ人数に限られていた。(以前の状況は)	看取りを経験し、難しさや、達成感等を経験し、職員の自信や結束力に結び付き、協力医療機関や、家族と利用者の重度化に合わせ、話し合い、確認を取りながら、重度化に向けた、ホームとしての取組を始めている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はしていない為出来ないスタッフもいる。		
37		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練もまだ不足している為、全職員は身につけていない。地域と合同の訓練までには至っていない。	消防署の協力のもと、昼夜を想定した年2回の避難訓練を実施し、いざという時に、慌てないようにしているが、職員間で均一化するよう、更なる訓練を実施する計画がある。	非常災害時には、近隣住民の協力が不可欠であるので、地域住民参加の避難訓練の実施と、併設施設との、合同による訓練を連携を密にして実施していくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格等を見極めて尊重した声かけを行っているつもり。利用者様に合った言葉を選んで対応しているつもりである。状況によっては、出来ない時もみられるのでは....。	管理者と職員は、利用者を日本を反映に、導いた人生の大先輩として、敬愛し、優しい言葉かけや、さりげない見守りで、利用者のプライバシーを傷つけない、介護サービスの実践に努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望時の問いかけをしたり、又表現しやすいような雰囲気作りには努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られたスタッフ数である為、完全には希望には添えないが、少しでも添えるように努力はしているつもりである。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方にあった衣類を着ていただいているつもりだが、おしゃれにまでは至っていない。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、調理、つぎわけ、片付け等手伝って頂いているが、だんだんとレベル的に困難になってきている。作業内容より楽しく会話しながらと努めている。調理、つぎわけ等、出来る方も少なくなられ、その時出来ない場合も後で直しつつも見守りしながらやっている。	食事は、利用者の楽しみな時間で、一人ひとりの残存能力を活かし、下拵えや、配膳、後片付け等、利用者と職員と一緒に準備している。また、利用者と職員は、同じテーブルで、同じものを食べながらの食事風景は、微笑ましい光景である。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方には摂取しすぎないように水分摂取が少ない方にはスタッフが側について声掛けや見守りを行っている。10時、15時、入浴後、食後の水分補給は必ず行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人の状況に応じて声かけや見守り、介助等行っている。義歯洗浄の介助はできても数本残っている自歯のケアが不十分になってきている。拒否等もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツと紙パンツの使い分けをしたり、入所者に合わせた時間でトイレ誘導を行ったりしている。朝、布パンツへ、夜、紙パンツへ夜だけトイレの声かけ等を行っている。	管理者と職員は、利用者がトイレで排泄することを基本とし、日中は布パンツの利用者が多く、紙オムツから布パンツに改善された事例も多く、トイレでの自立に向けた支援で、利用者の自信回復に繋げる努力をしている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはクロレラや水分摂取のすすめ、体操等を行っている。日頃よりできるだけ繊維質の食材を摂るように心がけている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は、基本1日おきに声をかけて拒否があれば無理強いせず可能であれば毎日入浴もしている。汚染があれば毎日でも入浴したり拒否があっても2～3日以内に入浴されるような対応をとっている。	入浴は、一日おきではあるが、毎日でも可能で、利用者の体調や、気分に応じた入浴の支援をしている。また、入浴が嫌いな利用者にも、無理強いせず、職員が交代で声かけし、楽しい入浴になるように支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でも臥床希望の方は臥床し昼寝が必要と思われる方には昼寝に誘導、布団干し等もしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	大まかな内容は理解しているが細かい部分までは把握出来ていないのでは…。誤嚥防止にスタッフによる重複確認を声かけ合っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、歌、散歩等、可能な限り個々の能力や希望を尊重しているが、他の利用者様の状態により支援できにくい事がある。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望は比較的叶えられている。具体的な行先の希望はあまりないが、その時期に合った場所に時々遠くまで出かけている。	ホームの周りは、自然が一杯で、散歩コースが数か所あり、比較的、簡単に出かけやすい状態である。買い物、外食、レクリエーション、ドライブ等、家族の協力を得て、日々の外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で購入しお金を払える方には手持ちの現金を持って自由に使えるようにしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物へのお礼の電話や本人希望の電話をスタッフと共にしている。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や花、飾り物等で出来るだけ綺麗にするよう努めている。掃除や飾り物は行っているが異食行為の恐れがある入居者がいる為、花は限られた場所のみにしている。	木造平屋建てで、家庭的な雰囲気のある住宅は、木をふんだんに使用し、温かみのあるつくりで、各所にバリアフリーを設置し、安心して、穏やかに暮らせる配慮がある。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置いて、日向ぼっこや外を眺める場所がある。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具や小物等持ち込んで使用して頂いている。持ち込んだ家具が危険になったりした場合はFacに報告し交換して頂く等、安全面も考慮して行っている。	家族の協力で、利用者が使用していた馴染みの物や、家具、茶道具、仏壇等が持ち込まれ、自宅と違和感のない雰囲気、いつまでも、居心地良く暮らせる配慮がされている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の段差をなくしたり、トイレと書いた貼紙をする等安全で自立した生活が送れるように工夫している。		